

上教大・川崎学長続投を辞退

選考過程に不透明さ 学内から疑問視する声

上越教育大（上越市）は24日、川崎直哉学長が病気のため来年4月からの2期目の続投を辞退し、次期学長に元副学長の林泰成氏に就任すると発表した。11月に行われた学長選考では、教職員らによる事実上の投票ともいえる「意向聴取」とは真逆の結果となっていた。選考過程の不透明さを巡る問題は東京大や筑波大など全国で相次いでおり、上教大の教授たちからも「学内民主主義」の在り方を疑問視する声が上がっている。

上教大の学長は、小椋裕二副学長ら学内の3人と、県文化振興財団の長谷川彰理事長ら外部の3人の計6人で構成する「選考会議」が選ぶ。候補者が複数出た場合、この審議の参考にするため、教職員らを対象にどの候補が学長にふさわしいか答えてもらう意向聴取を行っている。

今年9月に公示された学長選には、川崎氏と林氏が推薦された。意向聴取では有効投票273票のうち、川崎氏が81票だったのに対し、林氏は192票と大差を付けていた。

しかし、選考会議は新型コロナウイルスの感染拡大など「危機下における継続性やリーダーシップ」を理由に、川崎氏の再任を決めた。こうした選考の在り方に、ある教授は「僅差ならまだしもダブルスコアだ。法的な問題はなくても、教員を養成する大学で民主主義が守られないのは道義的に問題だ」と憤る。

教職員組合が選考会議の議事録公開を求めたが、「非公開」との回答だった。組合委員長の下里俊行教授(60)は「意向聴取の結果と逆の判断をしたことについて、選考会議は説明責任を果たさず不誠実だ」と指摘した。

上教大広報課は取材に「選考会議の審議の自身はどこにも公表していない」と説明した。大学によると、川崎氏は今月初旬に精密検査を受け、早期に入院などが必要な健康状態と判明したという。川崎氏は21日に選考会議に続投辞退を届け出た。

来年1月に手術を予定しているというが、詳しい病状などはプライバシーを理由に明かされていない。今回の辞退劇について、上教大大学院の教授の一人は、「こういう結果が出ても選考会議が決めること。粛々と受け止める」と冷静に話した。

上越教育大学の学長選考の経過

9月25日	学長選考公示 川崎直哉学長と林泰成氏を推薦
11月26日	学長選考会議が教職員らに意向聴取 川崎学長 81票、林氏 192票
同	選考会議が川崎学長の再任決定
12月24日	川崎学長の来年3月での退任と後任に 林氏が就任することを発表